

**子** どもたちが小さい頃に、よく絵本を読んであげました。3歳ぐらいの時のことなので覚えていないだろうなと思うていましたが、21歳になった娘が、一冊の絵本を手に取り「この絵本よく読んでくれたよね。大好きだった

愛情のこもった美味しい料理は心も体も満たしてくれることでしょう。しっかり食べて季節の変わり目を乗り切ってください。

**異** 常気象により野菜も高値、海の魚もその傾向にあります。主婦としては家族の健康が一番大切なことです。夏の疲れが出てくる頃ですが、愛情込めた手料理で乗り切りたいです。(50代・女性)

**寄せられた声**

**ま**ちの**声**

みなさんからの声を紹介します。  
※プレゼント当選結果とは関係ありません

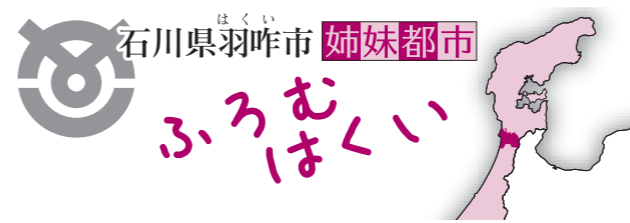
このほか4通のお便りをいただきありがとうございます。文章は紙面の都合上要約させていただくことがありますのでご了承ください。

**8**月29日朝、一斉に携帯が鳴り、初めは地震かと思いましたが、ミサイル発射・ミサイル通過と、まるで映画のワンシーンかと思いつつ、ビツクリです。(60代・女性)

市ホームページには弾道ミサイル落下時の行動に関する情報を掲載しています。ミサイルが発射された際にとるべき行動については、あらかじめ確認し、いざという時に備えてください。

よ」と一言。うれしくなりました。今、子育て中のママたちもお子さんにたくさん絵本を読んであげてくださいね。(50代・女性)

大人が思っている以上に子どもの記憶には深く残っているようです。一緒に絵本を読む時間は、子どもにとって親の愛情を感じられる大切な時間です。読書の秋をきっかけにぜひ始めてみてください。



↑市内初の農福連携は、自然栽培田の周りの草刈りでスタート。

**障害者が自然栽培農業をサポート  
広がれ、農福連携の輪**

農薬や肥料を使わない自然栽培の普及を図っている“はくい式自然栽培合同会社”と、今年4月に余喜地区にオープンした生活支援拠点施設“地域支え愛 村とも”。この二つが連携し、障がいのある人が自然栽培農業をサポートする農福連携の取り組みが、8月22日に市内で初めてスタートしました。自然栽培農業による農福連携は、農業・福祉のどちらにとってもメリットのある試みであり、全国的にも注目されています。

自然栽培の聖地化を掲げる羽咋市が取り組むことで、この農福連携を市内外に広く浸透・発信ができること農業・福祉どちらの関係者からも期待が寄せられています。

**プレゼント**

皆さんの声を募集します。本紙への感想、身の回りであった出来事や日常生活で感じたことなどをお寄せください。「まちの声」で紹介いたします。

※個別の回答はしません

応募・問い合わせ ハガキかメールに住所、氏名、性別、年齢、電話番号、まちの声を明記して〒375-8601(住所不要)市役所秘書課広報広聴係「まちの声」応募係・hisyo@city.fujioka.gunma.jpへ

お便りをくれた人の中から(株)おぎはらより家庭用包丁研ぎサービスを10人にプレゼント。応募締切は10月13日(金)当日消印有効です。

※当選者の発表は10日前後で、引換券の発送をもってかえさせていただきます



**家庭用包丁研ぎサービス**

心を込めて丁寧に研がせていただきます(セラミックは不可)。

切れ味が復活して、お料理も楽しく快適に!只今、人気のマキタ・充電式クリーナーも取り扱っております。軽くて吸引力もあり、当店オススメ商品です。

**株式会社おぎはら**

藤岡市藤岡878-14 ☎③1234  
営業時間/午前7時~午後7時  
定休日/日曜・祝日、第2土曜日の午後

プレゼントの提供者者を募集しています。秘書課広報広聴係☎④2208までご連絡ください。

**耳より情報**

**藤岡紫が旬の話題発信**

藤岡市観光協会PRキャラクターとして活躍している「藤岡紫」。本市の観光情報や各種イベント情報、グルメや土産品など旬の話題をフェイスブックで発信しています。市民の皆さんはもとより、市外、県外の人たちにも本市の魅力を積極的にお届けし、市内への観光客誘客を目指しています。ぜひ、フェイスブックで「藤岡紫」を検索＆「フォロー」してください。皆さんからの「フォロー」をお待ちしています!



藤岡市観光協会PRキャラクター 藤岡紫

**ふじおか Culture**  
~藤岡の文化を探る~ No.19  
問い合わせ 文化財保護課(☎③5997)

**本郷埴輪窯址**  
~日本で初めて発見された埴輪の窯址~

本郷にある本郷埴輪窯址は、明治39年に東京帝国大学の柴田常恵に発見されました。この窯址は日本で初めて発見された埴輪窯址であり、その後も発掘調査が続けられました。また、ここで焼かれた埴輪は、群馬県各地に供給されていたことが分かっています。このことから、本郷埴輪窯址は県を代表する埴輪製作跡であると言えます。

窯址の近くには『日本書紀』で埴輪の祖とされる野見宿禰を祀った土師神社があり、本郷は昔の地名を土師郷と言いました。そのため、群馬大学の教授であり古墳時代研究の中心的存在であった尾崎喜左雄は、この周辺に「土師部」が住んだ集落があったと考えました。土師部とは古代の職業集団のひとつで、土師器(土器の一種)や埴輪の製作に従事してきた人々を言います。

本郷埴輪窯址と同時代の古墳時代集落が、実際にこの周辺に広く展開していることが発掘調査で明らかになりつつあり、この中に土師部が住んだムラがあった可能性も十分に考えられます。

柴田常恵の埴輪窯址発見地点と記念碑